

令和 3 年度 県立総和工業高等学校自己評価表

目指す学校像	1 校訓である「智和憤」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する学校。 2 「圏央道新産業クラスターゾーン」を代表する工業高校として、地域の発展に貢献できる人財を育成する学校。 3 全教職員が資質向上に努め、魅力ある教育活動を推進し、生徒・保護者・地域社会から確かな信頼を寄せられる学校。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
・ものづくり教育を中心とした教育活動を通し、生徒自身が身に付けた技術や能力を地元開催のイベントや地元小学校と連携した出前授業で発揮することにより、生徒の社会性の向上がみられた。さらに地域社会との連携を深め、生徒が活躍できる機会を増加させる。 ・基礎学力不足や学習への取り組み姿勢に問題を抱えている生徒一人一人に対して、教科毎に適切な学習指導を実施することにより、学力の向上が見られた。さらに生徒の興味関心が高まる授業改善に努め、学習に対する意欲を向上させる。 ・地元小学校での挨拶運動に参加するなど、積極的に地域で活動する生徒が増加しているが、規範意識の低い生徒や基本的生活習慣が確立されない生徒がみられる。問題行動の未然防止や早期発見に努めると共に、交通安全教育とマナーアップをさらに充実させる。 ・令和 2 年度の進路状況は就職者が約 67%を占め内定率は 100%であった。大学、専門学校等進学者は約 33%となり前年より増加であった。引き続き企業実習などのキャリア教育・進学支援を充実させ、進路意識の育成を図り、進路決定率 100%を継続する。 ・資格指導の校内体制を整え、講習会の充実や外部講師を招聘し、実技講習会を実施したことで、資格取得に取り組んだ生徒の増加と合格者の増がみられた。 ・部活動加入率が 40%程度に留まっている。積極的に部活動紹介を実施し加入率を高めることにより、部活動の活性化を図る。	学習意欲を高める授業・実習の指導改善	①授業規律の確立と基礎的・基本的な内容を重視し、確かな学力の定着を図る。 ②観点別評価を活かした学習活動に努め、授業・実習の指導改善を図る。 「主体的・対話的な深い学びを意識する。」 ③ものづくり教育を推進させ、専門的な知識や技術の習得と、資格取得につなげる。	B
	道徳教育の推進と基本的生活習慣の確立	④規範意識の高揚を図り、基本的生活習慣を身につけさせる。 ⑤道徳教育やいじめ防止対策推進体制を確立し問題行動等の未然防止に努める。 ⑥ルールやマナーの向上を図り交通事故防止に努める。	B
	健康や体力を育み学校全体の活性化	⑦部活動やホームルーム活動等を充実させ、生徒の主体性を育む。 ⑧学校行事等を通して、生徒の自主性・自律心を育成し、学校全体の活性化を図る。 ⑨特別活動の充実を図り、体験的活動を通して自発的・自治的な態度の育成に努める。なお、総工版キャリア・パスポートによりその確認を行う。	B
	社会の変化に対応した生きる力の育成	⑩キャリア教育を推進し、勤労観・職業観の育成を図り、進路希望の実現を目指す。 ⑪企業体験学習や進学支援を充実させ、主体的に進路選択ができるようにする。 ⑫校内環境の美化に努め、よりよい生活環境の創造のための実践的な態度を育成する。	B
	P T A 活動の活性化と地域社会との連携	⑬ P T A 活動の活性化のため、保護者との連携と行事の工夫改善を推進する。 ⑭地域イベントへの参加や出前授業などを展開し、ボランティアや奉仕活動等にも積極的に参加し、本校の特色をアピールする。 ⑮ものづくりを生かし、地域社会との連携を推進する。	B
	働き方改革の推進	⑯業務の見直しを行い、その効率化を図る。	B

三つの方針	具体的目標	評価	評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」 （スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	○長期的目標 ・校訓である「智和慎」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する。 ・「圏央道新産業クラスターゾーン」を代表する工業高校として、地域の発展に貢献できる人財を育成する。 ・全教職員が資質向上に努め、魅力ある教育活動を推進し、生徒・保護者・地域社会から確かな信頼を獲得する。	B	卒業時に望まれる姿から逆算した、授業等に取り組む目標の設定
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	○中期的目標 ・多様な学習ニーズに応じた新たな教育課程の編成による、就職から大学進学までの進路希望の実現 ・生徒個々の進路希望を確実に実現するために、系統的・組織的なキャリア教育を推進し、企業や大学との連携を図り、望ましい勤労観や職業観を養うとともに、進路意識の高揚を目指し社会の変化やグローバル社会に対応できる力をもつ生徒の実現	B	教育活動の趣旨を学校外の関係者・諸機関と共有するための体制を構築
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	○短期的目標 ・基礎基本を重視して「確かな学力」、「生きて働く知識・技能」を確実に習得し、「工業技術者として必要な思考力・判断力・表現力」を身につける努力をする生徒 ・工業の基礎的・実践的技術を習得し、各種資格取得やものづくりに真摯に取り組む生徒 ・基本的生活習慣を確立させ、自己の進路実現を目指し、日々努力する生徒	B	中学校関係者に対し、学校が期待する生徒像を積極的に明示
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教務部	新たな学習環境の整備を図る。	対面授業に替わる授業形態の研究し、実践する。 ①②③	B	新学習指導要領に沿った評価基準等を定めるとともに、タブレット・電子黒板の活用を推進する。
		タブレット、電子黒板を活用する授業に関して校内研修を行う。 ①②③	B	
		リモート研修等が可能な環境の整備に努める。 ①⑬	B	
	新学習指導要領に基づく基礎学力の向上を図る。	学力向上推進総合事業の中心的役割を果たすため企画立案を積極的に行う。 ①②③	B	
		新学習指導要領に則った評価基準を定める。 ②	C	
		定期考査・基礎力診断テストを効果的に活用し基礎学力の向上を図る。 ①②③	B	
情報管理部	教務の連携及び教員 ICT 教育。	ICT 等の活用で教務との連携を図るとともに、教員の ICT 技術の向上を目指す。 ②⑬	B	・教員の ICT 技術のさらなる向上 ・生徒端末の管理 ・タブレット及び電子黒板の使用技術向上 ・端末貸与などの事務処理の徹底 ・きんむくんの活用率 UP
	端末貸与・購入補助の管理	端末貸与・購入費補助に関する事務処理のフローチャート作成および台帳管理の徹底 ⑬	B	
	教員及び生徒のネチケット。	一人一台は情報端末を所有している中で、情報漏洩や誹謗中傷等をさせない教育指導。⑤⑥	B	
	ICT を利用した業務改善	クラスルームなどの茨城県教育情報ネットワークを活用して教員間の連携を図ることによって、ペーパーレス化と情報共有を円滑にする。 ⑬	A	
生徒指導部	学生生活の根本である「授業規律」を確立することにより、自己の規範意識、基本的生活習慣や社会のルールを見直すことができる生徒を育成する。	朝の立哨指導及び遅刻者カードを導入し、遅刻者の減少を推進する。また、昼休みの校内巡視および毎月の頭髪服装検査等を全職員共通理解のもとで実施する。更には、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応に努める。 ④⑤⑥	B	・遅刻者への指導の徹底 ・特別指導の生徒への各学年での対応のさが出てしまった ・交通事故件数は減少したが、バイク通学許可者への継続的な指導の徹底
		道徳の授業や他の関係分掌との連携行事により、道徳的な態度や考え方を育み、社会の一員として自覚のある心身を育成する。 ④⑤⑩	B	
		各学期毎のマナーアップ週間、毎週水曜日、生徒会によるあいさつ運動、マナーアップキャンペーン参加等をとおして、マナーの向上や地域の貢献に努める。 ④	B	
		毎月の生徒情報交換会をとおして、生徒に関する情報を共有し、保護者との密な連携を取りながら、いじめ問題、問題行動等の未然防止に努める。 ⑤⑥⑬	B	
		携帯電話やインターネットの安全利用について、生徒、保護者の意識を高めるための講演会や安全教育を推進する。 ④⑤	B	
		交通安全教室を学年毎に実施し、危険察知力を養い交通ルールの遵守と交通事故の減少に努める。 ④⑥	B	
	交通安全教育の充実とともに、交通マナーの向上、交通事故の未然防止を図る。	各学期毎の自転車、バイク点検およびマナーアップ週間等の登下校指導により、交通安全意識の高揚を図る。 ④⑥	C	

進路指導部	進路意識の向上を図る。	学年と連携して進路ガイダンスを実施し、生徒の希望進路実現に役立てる。 ⑪	B	B	・繁忙期の事務作業効率化 ・進路閲覧室の積極的な活用 ・コロナ禍における来客対応の工夫と改善
		進路通信を発行し、保護者や生徒とデータを共有し、進路意識の向上に役立てる。 ⑪	B		
		適性検査を実施し、客観的な自己評価を通して進路選択に役立たせる。 ①⑪	B		
		オープンキャンパス等への参加を促し、より良い進学を実現させる。 ①⑪⑭	C		
		工場見学、インターンシップを通して職業観・勤労観を育成する。 ①⑪⑭	C		
	進路達成の充実を図る。	必要に応じた情報の提供に努める。閲覧室を有効に活用する。 ⑪⑫⑬	B		
		本校職員による面接指導の充実を図る。 ⑪⑬	B		
		書類作成についての共通理解、留意点の周知徹底に努める。 ⑪	B		
		希望進学先・希望就職先についての事前研究を徹底させる。 ①⑪	C		
特別活動部	生徒会活動・学校行事等の活性化を図る。	コロナ対策をしながら生徒会役員が中心となり、各クラス・各専門委員会と連携をとりながら、より良い学校生活をおくれるように工夫・改善をし、学校行事等を実施する。 ⑧⑨⑬	B	C	コロナ禍でも特活部員中心に行事等は運営できた。しかし部活動加入率が年々低くなっていることやキャリアパスポートを用いた活動ができていないことが次年度への課題
	部活動の活性化を図る。	積極的に部活動紹介を行い、各部活動の取り組み等の強化を図り、企業のニーズに答えられるように指導をし、部活動加入率の向上に努める。 ⑦⑧⑬	C		
	各生徒会専門委員会の活動の向上を図る。	各専門委員会の年間活動を検討し、生徒会とも連携をとりながら活動を充実するように努める。 ⑧⑨⑫	C		
	キャリア・パスポートを用い、体験学習・ボランティア活動等の推進を図る。	総工版キャリア・パスポート用い、体験学習やボランティア活動等に対し、生徒の意識の向上や活動が充実するように努め、生徒自身が自己評価を行い自らの発達を促す。 ⑧⑨⑭	D		
図書視聴覚部	図書室の整備、図書室活用の活性化を図る。	図書室利用の円滑化並びに図書委員会活動の活性化を図る。 ⑦⑧⑬	B	B	図書委員の活動の活性化と入館者数の増加を図る。
		「図書だより」の刊行により図書委員の質の向上を図る。 ①⑧	B		
	視聴覚環境の改善を図る。	視聴覚室利用の円滑化管理運用を図る。 ⑦⑧⑬	C		
		什器を更新し、視聴覚室の利用環境の向上を図る。 ⑧⑫	B		
保健厚生部	心身の健康指導に努め、規則正しい生活習慣の向上を図る。	健康診断を通して、生徒の健康管理に努め、生徒の基本的生活習慣をつくる。 ④	B	B	コロナ禍で感染症対策においてマスク着用の徹底をすすめていきたい。
		マスク着用の徹底、食事における感染防止マナーなど感染症の予防に努める。 ④	B		
	学習施設環境の向上を図る。	学校敷地内の整備と清掃・美化に努めながら、安全で安心して学べる学習環境を確保する。 ⑧⑫	B		
		エアコン、扇風機、ストーブなどの安全な使用と管理を行う。 ⑫	B		
	防災教育の充実を図る。	防災避難訓練を通し、防災意識を高め、安全教育を行う。 ⑧⑫	A		
教育相談部	教育相談体制の充実を図る。	教育相談体制を整備し、生徒の様々な悩みを受け止め、指導できる体制を確立する。 ④⑬	C	B	スクールカウンセラーについて、全員の生徒が理解し、活用出来るようにする。
	カウンセラーを有効に活用する。	カウンセラーを有効に活用することで、生徒のケアを行う。 ④	B		
	職員間の連携を図る。	生徒情報を共有し、複数の教職員で生徒をサポートする。 ④⑤	B		
渉外部	PTA 行事の参加率向上を図る。	P T A 総会、支部別 P T A 等の内容検討。参加教員の意識向上を図る。 ⑬	C	C	コロナ禍のため、P T A 行事が思うようにできなかったが、対応策を講じ行事活性化を図る。
	PTA 研修会の充実を図る。	各支部の協力の下、早めに具体的な実施内容を決定する。 ⑬	C		
	学校 Web ページの活用を図る。	保護者への連絡を徹底するための情報伝達システムの構築を図る。 ⑬⑬	B		

第一学年	基本的生活習慣を確立させると共に社会への適応力を育成する。	保護者との連絡を密にし、服装や頭髮について定期的に指導を行う。	④⑥	A	A	次年度への課題として、基礎学力の向上、資格取得に向けて、意識を改善させていきたい。
		HRや学年集会を通して、部活動加入や資格取得への取り組みを促す。	⑦⑧	B		
		学校行事等を通して、人と人との関わり合いや助け合いの大切さを自覚させる。	⑤	A		
	基礎学力の定着を目指し、積極的な学習態度と意欲的な取り組みを図る。	進路指導部と連携して行事を行うことで、早期から進路意識の向上を図る。	⑦⑧	B		
		家庭学習・自主学習を習慣づけさせ、基礎学力の向上を図る。	①	B		
		授業担当者と連携し、授業に主体的に参加する態度を育成する。	⑩	A		
第二学年	基本的生活習慣を確立し、「社会人基礎力」を育成する。	出席状況・服装など生活全般について自己検証を行わせ、規範意識を高める。	④	C	B	・進路実現に向けて組織的に取り組む。 ・修学旅行や文化祭等の学校行事を充実させる。 ・将来に向けて資格取得を充実させる。
		挨拶の励行、他者との関わりの中で、社会人として必要な資質を身につける。	④⑩	B		
	基礎学力の定着を図り、「工業技術者」としての進路意識を高める。	実習や資格取得に取り組ませ、ものづくりを担う自覚を高める。	③⑩	B		
		積極的にインターンシップに参加し、職業観を育成する。	⑩⑪	A		
	有意義な学校生活を送れるよう導く。	学校行事・修学旅行をとおして、自己の居場所・役割を見つけさせる。	⑦⑧	B		
		自己の存在を肯定的にとらえ、他者をも大切にすることを育てる。	⑤⑦	A		
第三学年	進路指導の充実を図る。	生徒ひとり一人の進路実現のために段階的かつ適切な指導を行う。	⑩⑪	A	B	新型コロナウイルス感染症対策のため外部講師を招いての学年行事が制限されてしまった。
		各種適性検査を有効活用し、計画的な面接指導を行う。	⑩⑪	A		
	基礎学力の向上に努める。	進路実現のために自ら学習に取り組む姿勢を育てる。	②③	B		
		ホームルームの活用、各教科との連携を通して、卒業後に必要な基礎学力の向上を図る。	①	B		
	人間性の育成を図る。	規範意識の高揚を図り、社会人となる自覚と責任を持たせるための指導を行う。	④⑥	C		
		学校行事や校外活動への積極的参加を促す。	⑧⑨⑭	B		
機械科	基礎・基本の指導の徹底を行い特に技術力の向上を目指す。	「実習」を通して、基礎・基本をしっかり身につけさせる。また、ものづくりの面白さを体験させ、企業が必要とする工業についての確かな技術を有する人材を育成する。	①③⑩	B	B	感染症蔓延を起因に中止や縮小延期があった。その状況下、物事を見直すこともでき一概にマイナスばかりではない。
		企業の求める人材を育成するため、インターンシップに参加させる。	⑩⑪	B		
	勤労観・職業観の育成を図る。	「課題研究」を通して、学習への成就感・達成感を体得させる。また、発表会を行いプレゼンテーション能力の向上を図る。	②③⑧	B		
		指導法を工夫して合格率向上を図る。	①②③⑬	B		
	資格取得指導の充実を図る。	資格取得を継続的にを行い、生徒の進路実現に向けた支援を行う。	⑩⑪⑬	B		
		地域イベントに積極的に参加し、本校をPRするとともに参加生徒の積極性や社会性を育成する。	②⑭	C		
		出前授業を継続し、地域との連携を図る。	⑨⑭	C		
電子機械科	新教育課程を踏まえ、変化する教育環境に対応できる専門教科の指導充実を図る。	学科教職員の教科指導力の向上を図る。	②③	B	B	教員が互いに研鑽して専門教科のスキルを上げる努力をしていきたい。
		電子黒板の特長を利用した専門教科の授業を行い確かな学力の定着を図る。	①②③	B		
		タブレットを使った授業研究を行う。	②	B		

電気科	専門教科の指導向上を図る。	教員が互いに研鑽し、他学科とも情報交換を行いながら一層の改善工夫を図る ①②	A	B	指導方法の提案・改善があり 資格試験の合格率は向上した 休校期間中のリモート授業に 対して消極的だった。
	資格取得指導の充実を図る。	生徒一人一人の進路希望、適正に応じた資格取得に対する意欲の高揚を図る。 ③⑩	A		
		能力に応じた指導を行い、生徒が希望した資格取得に向け合格率の向上を図る。 ①③	B		
	専門教科指導の充実を図る。	各専門教科を通して、「ものづくり」の基本を学び、達成感を得られるような、適切な教材の作成に努める。 ③	B		
		課題研究発表等を利用して、プレゼンテーション能力を高めさせるよう指導に努める。③	B		
	地域との連携を強化する。	各関係機関との連携を図り、積極的に「ものづくり」事業へ参加し、地域に向けた工業高校をPRする。 ⑭	C		
	基本的生活習慣の確立を図る。	実習などの少人数授業を活用し、生徒との関わりを通して、実社会において必要な教育の指導充実を図る。 ④	B		
国語科	読む力をつける。	教科書の本文を音読・黙読させ、内容に目を通させる。 ①	A	B	年々語彙力の無い生徒が増加しており、一つの単元にかかる時間が長くなっているが、それが飽きにつながり読み取りの意欲低下を招くこともあるので、更に工夫を重ねたい。
		文章の内容を理解するための課題を解決させる。 ①②	B		
	書く力をつける。	他の人が正しく読み取れるような文字を書けるように指導する。 ①	B		
		漢字や語彙を増やして、適切な文章が書けるように、学習活動を促す。 ①	A		
	話す力をつける。	伝達したい事柄を正しく相手に伝えられるように適切な言葉を選ぶ。 ①②	C		
		相手に応じて話し方を工夫する。 ①②	B		
地歴・公民科	基本的な事項・事柄を精選した授業を展開し、社会に関する基礎的な知識を身につけさせる。	具体的事例や時事問題を取り上げるなど、生徒が理解しやすい授業の展開・工夫に努める。 ①②	B	B	来年度に向けたカリキュラムを設計し、より生徒の実態に合わせた指導を行っていきたい。
		生徒が主体的に学習へ取り組めるような魅力的な教材の開発を積極的に行う。 ①②	B		
		生徒が学びを実感できるよう、学習内容の振り返りを積極的に行う。 ①②	C		
	社会的事象及び歴史的な事象に対する関心を高める。	効果的に ICT を活用した学習を行う。 ①②	B		
		視聴覚教材の積極的な活用を図る。 ①②	B		
数学科	基礎計算力を高める。	計算過程の復習を繰り返し、基礎計算の練習をする。 ①	A	A	生徒が自主的に取り組める環境をつくり、数学的思考力を高める。
		課外授業や補習授業を行い、個別指導の充実を図る。 ①②	A		
	数学的思考力をつける。	プリントによる問題演習や小テストを実施し、生徒が自ら取り組める環境を充実させる。 ①②	B		
		生徒が数学検定を受けられる環境を作り、生徒の学習活動を促す。 ②③	B		
理科	理科への興味関心を高める。	身近な話題や工業科目との関連を意識した題材を取り上げ、理科への興味・関心を高める。 ①	A	C C	電子黒板を使った授業展開はできたがgoogleformは使わなかった。また実験の機会が少なかったことが課題。
	学習に向かう姿勢を育成し、基礎的学力、基本的な知識の確実な定着を図る。	授業態度や課題提出の指導を強化し、授業に臨む意識や態度の向上を図る。 ①②	B		
		「科学と人間生活」においては、科学的な一般常識の修得に重きをおいた授業を展開する。 ①	B		
		小・中学校レベルの内容に戻りながら、基本的な法則や公式の確実な修得に重きをおいた授業を展開する。また googleform を活用し生徒の理解度を確認しながら授業をすすめる。 ①	C		
	科学的思考力を養成する。	実験・観察や問題演習を通して、科学的に考える力や知識を活用する力を養わせる。①	D		
	生徒の能力に応じた指導を行う。	成績不振の生徒には補習を定期的に行い学力の向上を図る。 ②	C		
		工業科と連携し、工業系資格の合格者数の増加を目指す。 ③	A		

保健体育科	服装指導の徹底を図る。	授業開始時、服装の乱れを指摘しチェックを行い、規範意識の高揚を図る。指定の体操服を着てこない生徒には、毅然とした態度で接して徹底を図る。④	A	A	次年度への課題として、コロナ禍による生徒の体力レベルの低下に対して、向上に向けた対策を実施していく。
	運動技能と体力の向上を図る。	自己の能力に応じた運動の課題に対し、適切な指導・アドバイスを行う。②	B		
		各種競技に関連する運動を積極的に授業に取り入れ、生徒の体力レベルを昨年度以上にする。①②	B		
	感染症対策を徹底させる。	運動時以外のマスクの着用を徹底させる。⑦	A		
		授業前後の用具の消毒及び、生徒へも消毒の徹底をさせる。⑫	A		
	自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育む。	的確な思考・判断に基づいて適切な意志決定を行い行動選択ができるよう、保健の授業を通じてさまざまな知識や情報を伝達し、理解を深めさせる。①	A		
芸術科 (書道)	書の基本技術及び書写能力の向上を図る。	個々に応じた指導を積極的に行い、表現力や全体の構成力を養う。①②	A	A	基本技術能力の向上は勿論、書への関心を高める。
		書への関心・感性を高め、書の伝統と文化についての理解を深める。①②	A		
英語科	基礎学力の向上を図る。	授業取り組みに対する意識の向上に努め、基礎・基本を重視した指導に努める。①②	B	B	・確かな学力の習得 ・四技能の活用と習熟
		基礎的・基本的な事項を丁寧に説明し、わかる授業を行い、確かな学力を習得させる。①	C		
	授業内容の定着を図る。	プリント学習を通して問題演習を行い、学習達成状況や取り組みを確認する。①	B		
		ALT との連携、視聴覚教材の活用を通して、英語への興味・関心を高める。①	B		
	英語活用能力を養う。	生徒が四技能を活用する場面を設定し、総合的な英語運用能力を養う。①②	C		
		工業リスニング検定・実用英語検定の対策を講じ、合格者数の増加を目指す。①③	B		
家庭科	家族・家庭に関する知識と技能の習得を図るとともに、持続可能な社会の担い手としての倫理観と接遇意識を育む。	基礎的・基本的知識の定着と加速度的に変化する社会の情報を取り入れる能力を養う。①	A	A	コロナ禍においても主体的に学習できるリモート work や googleclassroom 内の学習方法及び提出資料添付及びネット環境が課題である。
		実習において、Try and error の経験から技術の定着とやり抜く力 (GRIT) の向上を図る。また、学校生活から接遇について一緒に考え、倫理観を育てよう努める。ワークライフバランスについて一緒に考え、持続可能な社会の構築ができる人材の育成を図る。①②	B		
	自己管理能力の向上を図る。	食育の観点から、生徒が主体的に望ましい生活習慣とは何かを考えられるよう努める。①④	A		
	わかりやすい授業の工夫に努める。	学習課題を明確にし、R80 や川柳などの手法を取り入れ、生徒が主体的に学習できるよう努める。①②	B		
		ICT 教室・教材を積極的に活用し、生徒が主体的に学習し、わかる授業の改善に努める。①②	A		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない